

## 第1回 バス系統ナンバリング検討会 議事概要

平成30年2月1日(木)15:00~17:00  
合同庁舎3号館8階 自動車局第一・第二会議室

- (1) 資料1設置要領(案)を諮り、了解を得た。
- (2) 検討会の座長に鈴木委員が選任された。
- (3) 資料説明の後、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。
  - 外国人は、漢字が理解できないし、記号としても記憶するのは難しい。漢字+数字のナンバリングでは乗りたいバスの判別が困難。
  - バスナンバリングは数字で行うというのが世界標準。日本で漢字が使われているのは、みんな漢字が読めることが前提。
  - ナンバリングの方法は、上り下り別の行き先番号として設定するのか、上り下り共通の系統番号として設定するのかによって大きく異なってくる。
  - 路線の形態が駅を通過するのか、駅を起点とするのかによって、上り下りでナンバリングを変えたり、変えなかったりする場合がある。
  - 地域に複数事業者がいる場合、番号の調整が必要。
  - 現行のナンバリングが地域に根付いている場合は、変更には利用者の混乱を招かないように配慮することが必要。
  - ナンバリングを実施するに当たっては、バス停や車体表示、案内板等の改修が必要であり、費用面が課題。
  - ナンバリングの変更は、ダイヤ改正のタイミングに合わせたり、外国人利用の多い系統から段階的に実施することも検討すべき。
  - ナンバリングとあわせて方向幕の背景の色を変えるなどの工夫も有効。
  - ナンバリングの変更を検討しているが、ガイドラインを出してもらえるとありがたい。
  - 鉄道駅を降りてからバス停までの一連の導線を切れ目なく案内することが重要であり、バス会社だけでなく関係者の協力が必要。
  - 訪日外国人への対応は、系統のナンバリングだけでなく、バス全体をトータルでインバウンド対応にすることが重要。
  - アンケートには、「自国でバスに乗ったことがあるか」を加えたらどうか。

以上